令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞　主催者賞

まちぐわーに活気を！

沖縄県那覇市　沖縄尚学高等学校 地域研究部 まちもどし

私たちは「まちもどし」という活動を部活で行っている。私たちの活動目的は、沖縄の那覇にある国際通りにつながる裏道、「まちぐぁー」を以前のように活性化させることである。「まちぐぁー」とは沖縄の方言で市場・商店街を意味し、昔は地元客で活気に溢れていた。しかし、近年は大型商業施設の新設で馴染みの店の閉店、観光客向けの店が増加したこと、などにより、地元客の足が遠のいているのが現状である。「まちもどし」は地元客をターゲットに行っており、私たちは主に沖映通り・市場本通り・公設市場・パラソル通り・むつみ橋通り・平和通りの六つの通りを中心に活動している。

私は私たち高校生がこの活動を行うことに意味があると考えている。なぜなら私たちのような若い世代が情報発信源になれば、自然と同級生や先輩後輩、周りの人たちに、店員とのコミュニケーションの取りやすさや沖縄独特のゆったりとした雰囲気といった「まちぐぁー」の魅力を伝えられると思うからである。また同世代のやっていることに対して、興味を持ってくれるかもしれない。その面で、私たちが行っているこの活動は大きな意義があると考える。

ところで、なぜ「まちぐぁー」を再発展させる必要があるのか。

表にある国際通りは観光客だけでなく地元客からも人気で、その人気は人混みからも伺える。昔、若者に人気なアパレルショップなどを含むお店が、国際通りの「まちぐぁー」に集中していた。そこで買い物をすることが

竹あかり祭りでの作業の様子

できたが、大型ショッピングモールの開店で、多くのブランドがそこに流れ込んだことにより、客足は「まちぐぁー」から遠のいてしまった。こういった時代の流れに伴い、必要なものを他で揃えられるようになったため、どんどん人が「まちぐぁー」に寄らなくなり、馴染みの店の閉店も相次いでいる。

若者は買い物というより通行するためだけに使う道という認識に近いのではと感じる。実際に平和通りで働いている方に聞いてみたところ、学生が通学路として使うが、そこにある店にはあまり興味を持たず、彼らが買い物をすることは少ないと言う。そのため、観光客が足を運んでくれるかどうかに「まちぐぁー」の将来がかかっていると言っても過言ではない。つまり、「まちぐぁー」は観光客依存していると言えるだろう。

実際にツアーを行っている時の様子

動画撮影

観光客が来ることのメリットは、国境を越えて、世界の人に国際通りの魅力を知ってもらえることであり、またこれは観光客の増加につながる。しかし、新型コロナウイルスのような外出自粛を余儀なくされる状況にあると、収入が不安定になる他、営業時間の短縮によって、さらに客足が遠のいてしまい、深刻な状況に追い込まれてしまう。

では、観光客に依存しないで「まちぐぁー」を発展させるためにはどうしたら良いのか。私たちはその課題を考えながら、次のような活動を行ってきた。

例年は、小学生を対象に私たちの紹介したい店をまわる探検型のツアーを行っていた。対象を小学生にすることで、小さい頃から「まちぐぁー」に触れる機会を増やし、親しみを感じてもらい、彼らだけでなくその魅力を聞いた家族世代にも「まちぐぁー」に足を運ぶきっかけにしたいと考えた。そのツアーを行うための資金集めとして、「まちぐぁー」にある店と連携し、竹あかり祭り（各地で増えすぎた竹に穴を開け、デザインを加えて、竹灯籠を作り出すイベント）でちんすこうアイスを販売した。販売だけでなく竹にあかりを灯す作業なども同時に行った。またこれらの活動功績を地方局のラジオ出演で広告することで、私たちの活動を広く知らせることができ

た。

昨年度も同じように活動を続けていこうと考えていた最中、新型コロナウイルスが全国的に広まり、例年のようなダイレクトな活動を行うことが難しくなった。そんな状況下で、「まちぐぁー」の活気はより一層低下し、観光客依存が浮き彫りになった。同時に、観光客依存脱却を掲げる「まちもどし」の活動はなくてはならないもののように感じられ、重要性を再確認できた。

市役所にて企画の打ち合わせ（てんぶす前電光掲示板投影について）

私たちが行える活動範囲が狭まった中で、私たちは密を避けて行える活動に切り替えた。はじめに、ツアーの代わりとして、小学校に動画を届けることにした。遠足や社会見学がなくなった小学生への地域学習のきっかけになって欲しいと考えた。実際に触れ合いながら探検ができないので、クイズを入れたり、ワクワクするような編集をしたり、小学生が途中で動画に飽きてしまわないような工夫をした。また、その動画が「まちもどし」の活動に賛同、協力してくれている一般の方、市役所の方に評価され、てんぶす前（国際通りにある琉球伝統文化を発信する商業施設）の電光掲示板に映し出すことを提案していただいた。その企画を実行するために、現在新しい動画の作成を行っている。

私たちが先輩となって、活動を進めていけるか心配だったが、てんぶす前に映し出す提案をしていただいた時は、今までの成果が出たと感じて嬉しかった。自信もつき、このコンテストに応募して、もっとこの活動を知ってもらいたいと思った。

これからの活動は、これまで行ってきた活動を継続しつつ、SNSを活用して、積極的に、「まちぐぁー」の魅力が伝わるように、活動を行っていきたいと考えている。また、他校と交流したり、ガイドブックを作成したりするなど、創造的なアイデアを実現させたいと考えている。そしてより多くの人に「まちぐぁー」について知ってもらい、再び活性化させたいと思う。

（沖縄尚学高等学校
地域研究部代表　2年　戸田愛梨）

MACHI_BACK2021
「まちもどし」
インスタグラム
QR コード

まちぐぁーについて知るために那覇市歴史博物館へ行った際の写真